

令和7年度第2回学校運営協議会 提言・意見交換 10/24(金) 14:00~15:30

於 プレゼンテーションルーム

寮整備に対する問題整理と今後について、探究活動を含む学校諸活動について

<提言>

足助支所長：花木委員

寮の整備と市外の生徒の対応が急務であり、市としての課題として、

1 法的責任の所在、法の整備 2 財政負担と公平性、県との兼ね合い・調整

3 安全管理・運営責任、法の整備 4 利用ニーズの不透明性、把握・将来的な見地による検証

がある。こども園の再利用については、古民家再生による地域の活性化との兼ね合いもあり、

県との調整・協力が不可欠である。市として支援の限界もある。

愛知県観光局局長：武田顧問

観光庁長官賞受賞式での代表生徒の堂々とした受賞姿に感銘。観光地足助の名を披露できた

ことは、今後の観光科の成長にもつながり、県としても積極的に関与していきたい。

足助交流館長：宇和佐顧問

寮（下宿）生活において、未成年女子の扱いは難しいので現段階での課題は多い。

ふれあい祭りでのアンケートで、学習の場やコミュニケーションの場が欲しいという意見が

あり、提供を考えていきたい。

足助商工会長：村上委員

家庭内受け入れの下宿については難しいので、寮が望ましい。市外生徒の受け入れ体制が

大切で、市としての課題を克服するにはより県の協力が必要なのでは。

三州足助公社社長：岡村委員

こども園の再利用については、財政面での不安が大きい。県の方針を確認した上で協力を

していきたい。

愛知県観光局課長補佐：鈴木アドバイザー

探究活動を参観し、最近の自由かつ自主的な学びを行う学習スタイルの変化を興味深く感

じられた。

おいでんさんそんセンター：戸田委員

全国をみわたすと寮を設置していない学校は多数ある。県立高校としての限界があるかも

しれないが、可能ならば地域みらい留学制度を利用している学校を参考するなど市外地域の

生徒の受け入れ方法を模索してみてもは。

足助高校PTA会長：鈴木委員

安心感が得られないままでは、保護者の子どもへの下宿・寮生活も勧められない。廃業した

旅館やユースホテルなどを利用して、なるべく早く受け入れ体制を整えていく必要がある。

コミュニティパワー取締役：関原委員

今回の観光庁長官賞受賞を香嵐溪の観光客にアピールすれば、足助高校だけでなく地域の知

名度のアップにつながる。空き家（マイパワーが確保した）はリフォームをしなくてほぼ利用

できる状態であるが、女子専用であるため男子生徒の下宿については今後も探していく必要が

ある。

豊田市立旭中学校長：近藤委員

旭からも寮で通えるようになると、進学指導もしやすくなり有難い。また今後も授業交流や

生徒交流を通して連携してもらえると有難い。

豊田市立稲武中学校長：山田委員

福祉施設「巴の里」を利用させてもらうことはできないものか。高齢者にとっては若者との

交流が刺激となり、高校生にとっても年配者からの教訓を享受できる機会となりうる。

豊田市議会議員：鈴木顧問

寮・下宿の問題は優先課題であり、解決が急務である。マイパワーの力添えに感謝している。

県議会では質問ではなく要望に踏み込んだ発言がされているので、今後は実行していくことが

課題となる。女性外国人労働者の専用アパートの問題も含め、市と協議・調整を図っていく必

要がある。

足助高校校長：上沼校長

学校運営協議会としてこの問題をどのように捉え解決できるか結論を出し、県や市への要望

や協力を求めている。

足助高校同窓会長：鈴木会長

かつての下宿スタイルや校内寮の再建ではなく、里親制度を含む新しい形での受け入れ体制

を考えていく必要がある。